

産婦健康診査事業について

1 事業目的

産後うつ予防や新生児への虐待予防等を図るため、産後2週間、産後1か月など出産後間もない時期の産婦に対する健康診査(母体の身体的機能の回復、授乳状況及び精神状態の把握等)を県下統一の制度で公費負担により実施することにより、産後の初期段階における母子に対する支援を強化し、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援体制を整備する。(本事業を、「産婦健康診査事業」という。)

2 実施主体

- (1) 産婦健康診査の実施：市町村
- (2) 産婦健康診査の導入及び産婦健康診査実施後の支援体制に係る関係機関との連絡調整：県

3 産婦健康診査の対象者

産後2週間、産後1か月など、出産後間もない時期の産婦

4 対象となる産婦健康診査

- (1) 内容
 - ① 問診(生活環境、授乳状況、育児不安、精神疾患の既往症、服薬歴等)
 - ② 診察(子宮復古状況、悪露、乳房の状態等)
 - ③ 体重・血圧測定
 - ④ 尿検査(蛋白・糖)
 - ⑤ エジンバラ産後うつ病質問票(E P D S)
- (2) 回数
対象者1人につき2回以内とする。

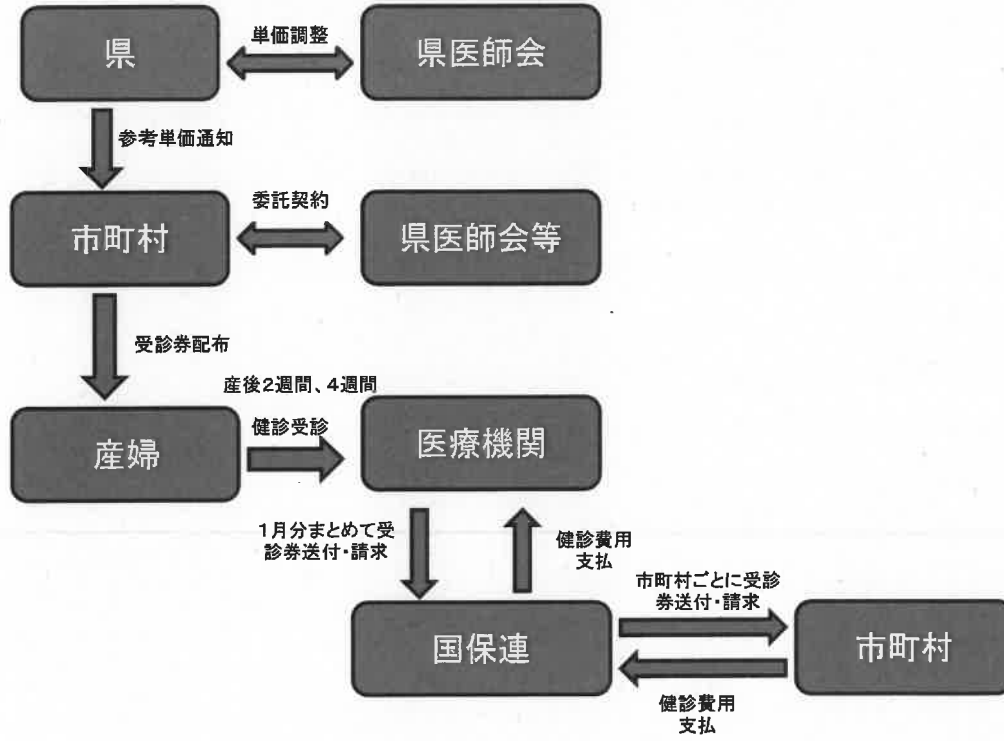
5 産婦健康診査事業の実施

- (1) 市町村
 - ア 本事業の実施に当たっては、妊婦健康診査と同様の仕組みを用いて、市町村は県医師会等と委託契約を結び、健診費用は国保連を通じて各医療機関に支払う。
 - イ 市町村は、産婦健康診査の結果を踏まえ、必要と認められる場合は、訪問指導等により産婦への支援を行う。
- (2) 県
 - ア 県医師会、岡山県国民健康保険団体連合会等の関係機関との連絡調整を行い、市町村が円滑に事業を実施できるよう、仕組み作りを行う。
 - イ 支援の必要な産婦健康診査の結果が速やかに市町村に報告されるよう、実施機関との連携体制の整備を図る。(妊娠中からの気になる母子支援連絡票の活用等)

6 健診単価

1回につき5,000円

県下統一の産婦健康診査の仕組み



※ 国保連を通じた請求は県内医療機関に限られる。

産科医療機関及び助産所に対する「産婦健康診査導入についての調査」結果報告

2018.7.12～2018.8.8調査
岡山県健康推進課

1 回答率等

区 分	依頼箇所数	回答箇所数	回答率(%)
産科医療機関	69	50	72.5
助産所	32	23	71.9
合 計	101	73	72.3

2 公費負担による産婦健康診査の実施について

産婦健康診査の導入はいつから可能か。

単位:箇所

区 分	平成30年 10月から	平成31年 4月から	その他	導入は難しい	合 計
産科医療機関	36	4	1	9	50
助産所	11	1	1	10	23
合 計	47	5	2	19	73

※「その他」の内訳

- ・倉敷市に合わせて。
- ・H31年4月以降

※「導入は難しい」主な理由

- ・分娩を取り扱っていないため。
- ・職員1人でありその中で産婦への指導事項、エジンバラも実施するというのは非常に負担が大きい。
- ・将来導入検討しているが、他の業務との調整が難しいため。
- ・子宮復古状況等の診察について、内診台やエコーもないので、十分な診察が難しいため。

平成30年10月から産婦健康診査を導入する予定の市町村

高梁市、新見市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、真庭市、
和気町、早島町、里庄町、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町、
美咲町、吉備中央町（16市町村）

※その他の11市町村は、平成31年4月以降順次導入予定

受診券(案) 表

H30. 7. 10

医療機関
コード

産後2週間ごろ、産後1か月ごろを目安に使用してください

産婦第●回

注 赤い太線内は本人が記入してください。

裏面にも記入欄があります。

保険者コード	33●●●●	※ この受診券は、平成30年10月1日以降に出産した産婦のみ使用できます。
●●市		
フリガナ		
産婦氏名		
生年月日	昭和・平成 年 月 日	
住所		
電話番号	() -	
受診年月日	年 月 日	
出産年月日	年 月 日 (第 子)	

産婦健康診査 受診結果票	
健診年月日	年 月 日
健康診査の所見又は今後必要な処置	
エジンバラ産後うつ病質問票	1. 合計点数 () 点 2. 特記事項 ()
総合判定	1. 異常なし 2. 経過観察 () 3. 要精密検査 () 4. 要治療 ()
産婦への指導事項	1. 栄養と体重管理 2. 母乳指導 3. 育児指導 4. その他 ()
市町村への連絡事項	市町村からの支援の必要性 無 ・ 有 → 有の場合、市町村への連絡 未 ・ 済 (連絡月日: 月 日) <連絡方法> 1. 妊娠中からの気になる母子支援連絡票 2. ハイリスク妊産婦連絡票(診療情報提供書) 3. その他()

産婦健康診査依頼票	
今回の健診(依頼)内容	
問診及び診察/体重・血圧測定/尿検査(蛋白・糖)	
エジンバラ産後うつ病質問票	

依頼のあった左記産婦の健康診査の結果は上記のとおりでした。

委託医療機関の

所在地
名称
担当医師名

印

上記産婦の健康診査(第●回目)を依頼します。

委託医療機関の長 様

〇〇市長

医療機関の方へ
(ア) 健診費用は、県が定める単価5,000円(公費負担5,000円)で実施してください。 (イ) 費用の請求については、本票の表面の所定事項をすべて記入の上、1か月分をとりまとめ、それに産婦健康診査費請求書を添付して翌月10日までに岡山県国民健康保険団体連合会へ送付してください。 (ウ) この依頼票による産婦健康診査は、本市町村内に住所を有する産婦に限りますので、住所を移された方には、移転先の市町村役場において産婦健康診査の実施の有無について確認するようお願いください。 (エ) 総合判定については、エジンバラ産後うつ病質問票合計点数のみではなく、診察結果及び産婦の様子を含めて、総合的に判断をしてください。 (オ) 本票上に医療機関コードを記入してください。

産婦さんへ
(ア) 本票は、健診を受ける際、本人記入欄に記入して、母子健康手帳とともに医療機関窓口へ提出してください。 産後2週間、産後1か月など、出産後間もない時期に、最大で2回まで使用することができます。 (イ) 本票による健診の費用は、公費で負担します(公費負担上限 5,000円、最大2回まで)。なお、公費負担額を超えた残額については、自己負担となります。 健診結果については、市町村等に報告され、産婦さんへの保健指導や支援に活用してまいります。 (ウ) 本票は、本人以外には使用できません。また、委託医療機関でのみ使用できます。 (エ) 他の市町村へ転出された方は、転出先の市町村へ産婦健康診査の実施の有無についてご確認ください。

受診券(案) 裏

注 本人が、赤い太線内を健康診査を受ける医療機関のプライバシーに配慮された場所で記入してください。

記入日

年

月

日

エジンバラ産後うつ病質問票 (EPDS)

産後の気分についてお尋ねします。あなたも赤ちゃんもお元気ですか。
最近のあなたの気分をチェックしてみましょう。
今日だけではなく、過去7日間にあなたが感じたことに最も近い答えに○をつけてください。

1) 笑うことができたし、物事のおもしろい面もわかった

- いつもと同様にできた
- あまりできなかった
- 明らかにできなかった
- 全くできなかった

2) 物事を楽しみにして待った

- いつもと同様にできた
- あまりできなかった
- 明らかにできなかった
- 全くできなかった

3) 物事がうまくいかない時、自分を不必要に責めた

- はい、たいていそうだった
- はい、時々そうだった
- いいえ、あまり度々ではなかった
- いいえ、全くなかった

4) はっきりした理由もないのに不安になったり、心配になったりした

- いいえ、そうではなかった
- ほとんどそうではなかった
- はい、時々あった
- はい、しょっちゅうあった

5) はっきりした理由もないのに恐怖に襲われた

- はい、しょっちゅうあった
- はい、時々あった
- いいえ、めったになかった
- いいえ、全くなかった

6) することがたくさんあって大変だった

- はい、たいてい対処できなかった
- はい、いつものようにはうまく対処できなかった
- いいえ、たいていうまく対処した
- いいえ、普段通りに対処した

7) 不幸せな気分なので、眠りにくかった

- はい、いつもそうだった
- はい、時々そうだった
- いいえ、あまり度々ではなかった
- いいえ、全くなかった

8) 悲しくなったり、惨めになったりした

- はい、たいていそうだった
- はい、かなりしばしばそうだった
- いいえ、あまり度々ではなかった
- いいえ、全くそうではなかった

9) 不幸せな気分だったので、泣いていた

- はい、たいていそうだった
- はい、かなりしばしばそうだった
- ほんの時々あった
- いいえ、全くそうではなかった

10) 自分の体を傷つけるという考えが浮かんできた

- はい、かなりしばしばそうだった
- 時々そうだった
- めったになかった
- 全くなかった

(出典) Cox JL, et al : Perinatal Mental Health : Edinburgh Postnatal Depression Scale (EPDS) Manual. 2ed, RCPsych Publications, 2014.

(日本語版) 岡野 禎治, 他 : 日本版エジンバラ産後うつ病調査票 (EPDS) の信頼性と妥当性. 精神科診断学, 7(4) : 523-33, 1996.

困っていること、気になっていることがあれば記入してください。

受診券(案) 裏

注 本人が、赤い太線内を健康診査を受ける医療機関のプライバシーに配慮された場所で記入してください。

記入日

年

月

日

エジンバラ産後うつ病質問票 (EPDS)

産後の気分についてお尋ねします。あなたも赤ちゃんもお元気ですか。
最近のあなたの気分をチェックしてみましょう。
今日だけではなく、過去7日間にあなたが感じたことに最も近い答えに○をつけてください。

1) 笑うことができたし、物事のおもしろい面もわかった

- () いつもと同様にできた
- () あまりできなかった
- () 明らかにできなかった
- () 全くできなかった

2) 物事を楽しみにして待った

- () いつもと同様にできた
- () あまりできなかった
- () 明らかにできなかった
- () 全くできなかった

3) 物事がうまくいかない時、自分を不必要に責めた

- () はい、たいていそうだった
- () はい、時々そうだった
- () いいえ、あまり度々ではなかった
- () いいえ、全くなかった

4) はっきりした理由もないのに不安になったり、心配になったりした

- () いいえ、そうではなかった
- () ほとんどそうではなかった
- () はい、時々あった
- () はい、しょっちゅうあった

5) はっきりした理由もないのに恐怖に襲われた

- () はい、しょっちゅうあった
- () はい、時々あった
- () いいえ、めったになかった
- () いいえ、全くなかった

6) することがたくさんあって大変だった

- () はい、たいてい対処できなかった
- () はい、いつものようにはうまく対処できなかった
- () いいえ、たいていうまく対処した
- () いいえ、普段通りに対処した

7) 不幸せな気分なので、眠りにくかった

- () はい、いつもそうだった
- () はい、時々そうだった
- () いいえ、あまり度々ではなかった
- () いいえ、全くなかった

8) 悲しかったり、惨めになったりした

- () はい、たいていそうだった
- () はい、かなりしばしばそうだった
- () いいえ、あまり度々ではなかった
- () いいえ、全くそうではなかった

9) 不幸せな気分だったので、泣いていた

- () はい、たいていそうだった
- () はい、かなりしばしばそうだった
- () ほんの時々あった
- () いいえ、全くそうではなかった

10) 自分の体を傷つけるという考えが浮かんできた

- () はい、かなりしばしばそうだった
- () 時々そうだった
- () めったになかった
- () 全くなかった

(出典) Cox JL, et al : Perinatal Mental Health : Edinburgh Postnatal Depression Scale (EPDS) Manual, 2ed, RCPsych Publications, 2014.

(日本語版) 岡野 禎治, 他 : 日本版エジンバラ産後うつ病調査票 (EPDS) の信頼性と妥当性. 精神科診断学, (4) : 523-33, 1996.

困っていること、気になっていることがあれば記入してください。

40mm

130mm

産婦健診第1回

このシールは健診を受ける医療機関が使用しますので、産婦さんは、はがさないでください。

産婦健診第1回

このシールは健診を受ける医療機関が使用しますので、産婦さんは、はがさないでください。

産婦健診第2回

このシールは健診を受ける医療機関が使用しますので、産婦さんは、はがさないでください。

産婦健診第2回

このシールは健診を受ける医療機関が使用しますので、産婦さんは、はがさないでください。

50mm

185mm

産婦健診第1回

このシールは健診を受ける医療機関が使用しますので、産婦さんは、はがさないでください。

産婦健診第1回

このシールは健診を受ける医療機関が使用しますので、産婦さんは、はがさないでください。

産婦健診第2回

このシールは健診を受ける医療機関が使用しますので、産婦さんは、はがさないでください。

産婦健診第2回

このシールは健診を受ける医療機関が使用しますので、産婦さんは、はがさないでください。

※このシールは、産婦健診を受診する医療機関へ持参してください。

施設名		電話番号	
記入者氏名		記入者職種	

平成30年7月岡山県健康推進課調査

産婦健康診査導入についての調査（第2回）

回答は、この用紙に御記入ください。

本調査の結果（回答内容によっては施設名も含む。）につきましては、各市町村母子保健担当課及び県保健所へ情報提供等するとともに、県が県医師会等関係機関の協力を得て開催する「岡山県産後母子への支援のあり方検討会議」で活用する予定です。

Q1 公費負担による産婦健康診査の実施について

県下統一で公費負担による産婦健康診査の仕組み（別紙参照）について、平成30年10月から貴院で導入は可能ですか。該当の番号に○をつけてください。

- 1 はい → Q3へお進みください。
2 いいえ → Q2へお進みください。

※ 回答が「1 はい」の場合には、施設名を関係機関（県内市町村、県保健所）及び産婦健康診査事業に係る広報において一般県民へ公表させていただきます。

※ 平成30年10月から産婦健康診査を導入する予定の市町村

総社市、高梁市、新見市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、真庭市、和気町、早島町、里庄町、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町、美咲町、吉備中央町（17市町村）
これ以外は、平成31年4月以降順次導入予定

Q2 今後の実施時期について

Q1で「2 いいえ」と回答された場合にお尋ねします。
県下統一で公費負担による産婦健康診査の仕組み（別紙参照）について、貴院で導入は。該当の番号に○をつけてください。

- 1 平成31年4月から
2 その他（ 年 月から）
3 導入は難しい
→（理由： ）

Q3 その他、御意見があれば自由に御記入ください。

☆質問は以上です。御協力ありがとうございました。
☆お手数ですが、この用紙を同封の返信用封筒にて送付してください。

【問い合わせ先】
〒700-8570 岡山市北区内山下2-4-6
岡山県保健福祉部健康推進課
母子・歯科保健班
（担当：國富、黒住）
TEL 086-226-7329（直通）
FAX 086-225-7283

→ 裏面へつづく

産科、精神科の連携強化について

岡山県産後母子への支援のあり方検討会議で課題となった産後母子支援での産科と精神科の連携について、関係者と「産後母子支援の産科・精神科連携協議」を開催した。

開催日：平成30年8月10日（金）

出席者：産科：中塚教授（岡山大学）

精神科：来住院長（県精神科医療センター）、

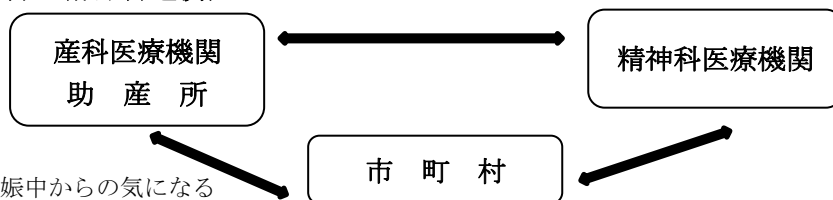
野口所長（県精保センター）

岡山県健康推進課 4名

結果：「産婦健診の導入に伴う、産科と精神科の連携システム」について、支援、連携について内容を整理した。

- 1 「妊産婦のメンタルヘルスケア 岡山県内精神科等協力施設一覧」（岡山県産婦人科医会作成）に掲載する精神科を増やすことが必要。今後、一覧に掲載する精神科を随時追加していく。
- 2 精神科では通常予約から診察まで約1か月かかるという問題があるが、産婦さんで、それでは間に合わない場合に、速やかに受診できるよう、精神科医会の中で協議し、働きかけていく。
- 3 産科と精神科で研修が必要
→ 産婦人科医会と精神科医会の合同で研修会を開催する。
- 4 妊娠中からの気になる母子支援連絡票の改訂について
→ 産科医会で改正案を作成。内容について保健所等とも情報共有しながら、平成30年9月1日の改訂を目指す。

〈産科・精神科連携〉



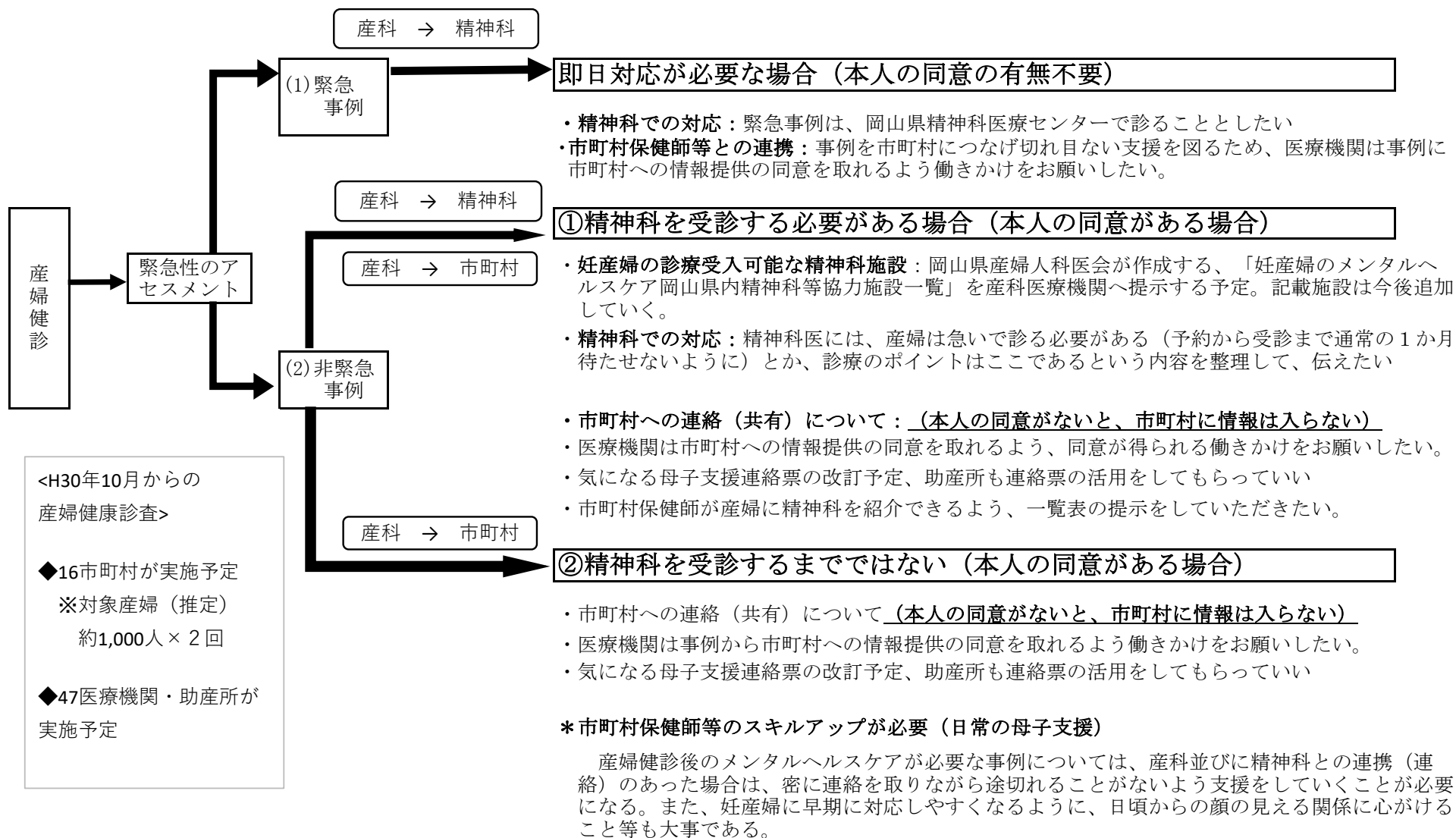
◆妊娠中からの気になる

母子支援連絡票

◆診療情報提供書

（ハイリスク妊産婦連絡票）

産婦健診の導入に伴う、産科と精神科の連携について



<H30年10月からの産婦健康診査>

◆16市町村が実施予定
※対象産婦（推定）
約1,000人×2回

◆47医療機関・助産所が実施予定

【その他】

- ・EPDSについて、産科、精神科、行政で、研修が必要である。

FAX・メール

岡山県産婦人科医会 宛て 086-250-2383 obsgyn@camel.plala.or.jp

改訂版：妊娠中からの気になる母子支援 連絡票 _____年____月____日報告

ご施設名 _____
お名前 _____

岡山県の母子保健の向上、虐待予防のため、産科スタッフが気づいたハイリスク母子の全数調査を行っております。
ご協力をお願いします。

その都度、1例ごと、お送りください。

前月に1例もなかった場合は、毎月10日までに、「前月なし」に○をつけてお送りください。 前月なし

アセスメント ①～④から選んで○を、また、緊急性等についてもいずれかに○をお付けください。

①産科スタッフを中心に支援するが保健師などの支援も必要・・・(緊急性(あり・なし))
②保健師などの支援が必要・・・・・・・・・・・・・・・・(緊急性(あり・なし))
③精神科受診・保健師などの支援が必要・・・・・・・・(緊急性(あり・なし))
精神科への紹介 ⇒ (未・済) ⇒ 紹介済みの場合 (緊急の紹介・通常の紹介)
④その他 () ・・・・・・・・(緊急性(あり・なし))

★緊急連絡希望時(保健師に「退院までに連絡を取りたい」等)

_____月_____日_____時ごろまでに連絡を希望

ご希望の連絡先 担当者 _____ 電話番号 _____

(もし、保健師等からの連絡がない場合には、岡山県産婦人科医会(086-250-2383)まで、再度FAXをください。)

リスク因子 (いくつでも○を)	
<p>FAX 送信時 妊娠 _____ 週 産後 _____ 日</p> <p>本人の情報提供への同意 (支援の希望) (あり・なし)</p> <p>ハイリスク妊産婦連絡票 (診療情報提供書)の送付 (あり・なし)</p> <p>低体重児・ハイリスク新生児 診療情報提供書の送付 (あり・なし)</p> <p>居住地 (町名まで) _____市_____町</p> <p>既往妊娠・産後の保健師等 の介入 (あり・なし) 「あり」の場合、 _____年_____月頃</p>	<p>背景因子</p> <p>①望まない妊娠(予期しない妊娠) ②10代の妊娠 ③未婚 ④高齢妊娠(40歳以上) ⑤不妊症治療あり ⑥不育症治療あり ⑦死産の既往 ⑧身体的疾患 ⑨精神科疾患(既往を含む) ⑩コミュニケーションがとりにくい ⑪外国人 ⑫既往妊娠・産後に問題あり(虐待・DV・うつなど) ⑬パートナーからのDV(疑) ⑭夫・家族の支援不足</p> <p>妊娠期リスク因子</p> <p>①母子手帳(親子手帳)なし(_____ 週までなし) ②妊婦健診が少ない(現在まで _____ 回) ③上の子へのネグレクト・虐待(疑) ④胎児の異常(出生前診断(あり・なし)) ⑤胎児への愛着が弱い ⑥妊娠中に精神支援が必要(実施していれば、妊娠 _____ 週の EPDS _____ 点) ⑦医療費の未払い ⑧喫煙がやめられない</p> <p>出産時・産後リスク因子</p> <p>①飛び込み分娩 ②助産制度 ③母体合併症(具体的に _____) ④産後の精神支援が必要(産後 _____ 日の EPDS _____ 点) ⑤多胎 ⑥新生児の疾患 ⑦胎児・新生児への愛着が弱い ⑧生まれた子どもへのネグレクト・虐待(疑)</p> <p>その他、気になること</p>

連絡欄 (_____)